

看護学講座 育成期看護学

1. 領域構成教職員・在職期間

教授	波崎 由美子	2004. 4～
講師	嶋 雅代	2013. 4～
助教	内江 希	2016. 4～
助教	三反崎 宏美	2017. 4～
助教	高村 理恵子	2018. 4～
助教	飯田 悠希子	2019. 5～

2. 研究概要

研究概要

本領域は次世代の健康・養育を担う女性と子どもに焦点を当て、次世代を産み育てる女性のライフステージすべてに関わる健康支援、母子の健康問題に関する研究を主な内容としている。また「ウイメンズヘルス」と「母性看護学・助産学」「小児看護学」の教育の質の向上と評価にも力を注いだ。

具体的には科学研究費補助金を基盤に、若年がん患者、AYA世代がん患者に対する妊孕性支援看護モデル構築、生殖補助医療を受療する高齢の女性のQOL工場に向けた関連探索研究、児への侵襲を最小限とする分娩助産法での母親と新生児の健康状態評価、妊娠婦婦を取り巻くソーシャルサポーターへの支援の検討、医療的ケアの必要な子どもへの親における災害への備えに向けた支援についての検討について研究を実施している。

キーワード

妊孕性支援、AYA世代がん患者、連携、協働、不妊症、生殖補助医療、妊娠期、体圧分散、寝心地、胎児娩出法、熟練助産師、分娩外傷予防、ソーシャルサポート、親役割、祖父母、孫育て、子育て支援、医療的ケアの必要な子ども、災害の備え、アトピー性皮膚炎、スキンケア

業績年の進捗状況

波崎について 2020年度は、AYA世代女性がん患者の中でも、わが国の生殖可能年齢に最も多い乳がん患者への妊孕性意思決定支援に関する国内外の文献レビューを実施した。2018年までの10年間の16文献を分析した結果、がん治療による妊孕性に関する情報提供は56～67%であり、すべての若年乳がん女性に情報提供が実施されていない現状、他領域との連携と協働が課題であることが示された。看護支援に関する研究は4件で少なかった「がん・生殖医療」は難しい看護であり、連携と協働なくしてはよい支援ができないと考えられた。そこで、妊孕性支援に取り組んでいるがん領域と生殖領域の看護師の領域間の連携と協働の実態と課題を明らかにするべく、研究分担者とともにフィールドを調整中である。

嶋について、不妊治療受療にもかかわらず挙児を得ることなく終結した女性の心身の状況についての文献レビューについて日本不妊カウンセリング学会誌に掲載された。今後は生殖補助医療（ART）を実施している4施設の協力を得て、40歳以上でART受療歴のある女性を対象に、ART受療中の女性ホルモン変動に伴う心身の変動、特に更年期様症状の有無や程度について質問紙調査を進めている。調査結果を分析し、40歳以上の高齢の女性におけるART受療時の特有の心身の変化、とりわけ更年期様症状を明らかにし、治療中から継続的な情報提供を中心とした看護支援モデルを構築する。また、妊娠後期における妊婦の臥床時の体圧分散については順調に研究協力者を得ることができており実験を進めている。結果については日本褥瘡学会学術集会での発表、及び論文投稿を予定している。

内江について、助産所熟練助産師は、自然な陣痛と胎児自身の回旋力による出産を見守る方法を実施していることから助産学基礎テキストにおける分娩助産時の技術とは異なる内容であったことを明らかにした。これについては、福井大学医学部研究雑誌に論文が掲載された。助産所熟練助産師は、児が屈位姿勢を保持できるよう、小さいままでの娩出を実施し、肩甲から軀幹娩出時も、自然な陣痛を待ちゆっくり娩出させることが、分娩外傷予防だけでなく、出生後の児の健康状態促進のために重要と考えていた。この結果を踏まえ、児の侵襲を最小限とする分娩助産方法による出産での産婦と新生児の健康状態を明らかにするため、若手研究「児への侵襲を最小限とする分娩助産法での母親と新生児の健康状態評価」を進めており、協力施設と調整中である。この結果を踏まえて、母児にやさしい分娩助産方法について検討する。

三反崎について、

高村について、医療的ケアの必要な子どもへの親における災害の備えについて概念分析した結果、医療的ケアの必要な子どもへの親における災害への備えとは「災害時を想定し準備された医療的ケアの継続に必要なもの・人体制づくり、および様々な場面のシミュレーション」であることを明らかにした。これを踏まえて災害への備えの親の認識と実態について研究を進めており、日本災害看護学会での論文投稿を予定している。また、これらの研究をもとに医療的ケアが必要な子どもの親が主体的に災害へ備える力を育むプログラムを構築するために、医療的ケアを持つ家族の主体性を育むためのアプローチ方法に関する先行研究について文献レビューしている。

飯田について「生後3～4か月児をもつ母親の子どもへのスキンケア行動の実態と影響要因」について、産褥期から育児期にかけた切れ目のないスキンケア教育について検討すること目的に、生後3～4か月児を持つ母親を対象に調査を予定しており、現在、質問紙を準備中である。

特色等

母性看護学・助産学および小児看護学領域の教育・研究は、母親、子ども、女性、家族の視点で、それらを取り巻く人々のより良い健康、QOLを目指すことを目的に、国内だけでなくとまらず国外にも研究成果を発表してきた。これらは本学の理念と一致するものである。

本学の理念との関係

波崎は基盤研究（C）「日本のAYA世代女性がん患者の妊孕性意思決定パートナーシップ看護支援モデルの創生」に関する研究を実施している。がん治療の進歩と生殖医療技術の進歩と普及により、生殖可能年齢にある小児・AYA世代がん患者のがん治療後の妊孕性保持に対する支援が必要とされている。福井県の地域医療の特性に応じたがん領域と生殖領域の医師や看護師の連携と協働が不可欠であり、その支援体制の構築を目指すものである。本研究は、地域社会に貢献する実践的な研究にあたり、本研究成果により、AYA世代女性がん患者の性的健康とクオリティオブライフへの貢献が期待できる。

嶋は若手研究「後年女性に対する生殖補助医療（Assisted Reproductive Technology：以下ART）終結後のQOL向上に向けた看護支援モデルの構築」を進めている。不妊治療受療にもかかわらず挙児を得ることなく終結した女性の心身の状況について文献レビューし、不妊治療終結後の女性への看護支援について検討した。国内外の文献について5データベースから抽出し、最終的に5文献を分析対象とした。その結果、不妊治療終結後の女性は自殺のリスクが高いことが示された一方で、挙児を得たカップルと比較しても全体的な人生の満足度やパートナーシップへの満足度、性的満足度に有意差はないことや、不妊治療で得られた経験を前向きにとらえ、夫婦で乗り越える過程が示された。しかし不妊治療を終結した後の女性を対象とした研究は少なく、特に身体的変化について明らかにする必要性が示唆された。現在、40歳以上でART受療歴のある女性を対象に、ART受療中の女性ホルモン変動に伴う心身の変動について質問紙調査を進めている。本研究により、40歳以上の高齢の女性におけるART受療時の特有の心身の変化、とりわけ更年期様症状について明らかにし、治療中から継続的な情報提供を中心とした看護支援モデルを構築すること、で、ARTを受療する女性のQOLへの貢献が期待できるという意義がある。また、妊娠に伴う身体的変化が最も大きくなる妊娠後期の妊婦において、臥床時の体圧分散、臥床体位、ベッドの頭部挙上角度と寝心地の関連について明らかにし、「妊婦にとっての寝心地のよさ」について検討すること目的とした研究を進めている妊婦の経過に伴って体重や姿勢が変化する「妊婦の臥床時の寝心地」についての示唆が得られることにより、臥床時に適度に体圧が分散し、容易に寝返り動作ができることで良質な睡眠を確保し、妊娠期のQOLを向上させ、健やかな周産期を過ごすことにつながるという意義がある。

内江は若手研究「児への侵襲を最小限とする分娩助産法での母親と新生児の健康状態評価」において、児の侵襲を最小限とする自然な陣痛と胎児自身の回旋力による出産での産婦と新生児の健康状態を評価することを目的として研究を進めている。現在、協力施設から分娩データを収集している段階である。本研究の成果により、助産学テキストでの分娩助産法の記載を見直し、児の侵襲を最小限とする助産方法について検討するための基礎データとなり、今後の助産師教育に役立てる一助となる。

三反崎は

高村は、若手研究「医療的ケアが必要な子どもの親が主体的に災害へ備える力を育むプログラム開発」研究において、医療的ケアの必要な子どもの親における災害への備えについて概念分析を行い、概念の構成要素を明らかにし定義づけた。その結果をもとに、現在プログラムの原案を準備中である。本プログラムは、一方的な知識の享受だけでなく、考え実施する力を養うことを目的としており、子どもの成長発達や病状の変化に沿った備えを継続していくことや親同士のピアサポートにもつながることが期待できる。

飯田は、近年、アレルギーマーチの起点となりうるアトピー性皮膚炎の治療には適切な情報提供とアドヒアランスを高める患者教育が重要であることから、初回の看護介入となる乳幼児期の教育的支援を検討することを目的に、乳幼児期の子どもの持つ母親を対象とした「福井県嶺北の子育て支援センターに通う母親の子どもへのスキンケアの実態」を実施し、洗浄剤の泡立て方や保湿剤の塗り方について過半数の母親が知識がなく、また知識を得ても準備の大変さや時間がかかることを理由に実施が難しいと考える母親が存在することを明らかにした。子どもの発達段階や家族の背景を考慮したスキンケアプログラムを構築することにより、個別性に合わせた支援が可能となり、アドヒアランスを高める患者教育に貢献できるものである。

3. 研究実績

区分	編数		インパクトファクター（うち原著のみ）	
	2014～2019年分	2020年分	2014～2019年分	2020年分
和文原著論文	1	0	—	—
	ファーストオーサー	0	0(0)	0(0)
英文論文	コレスポンディングオーサー	0	0(0)	0(0)
	その他	0	0(0)	0(0)
	合計	0	0(0)	0(0)

(A) 著書・論文等

(1) 英文：著書等

a. 著書

b. 著書（分担執筆）

c. 編集・編集・監修

(2) 英文：論文等

a. 原著論文（審査有）

b. 原著論文（審査無）

c. 原著論文（総説）

d. その他研究等実績（報告書を含む）

e. 国際会議論文

(3) 和文：著書等

a. 著書

b. 著書（分担執筆）

c. 編集・編集・監修

(4) 和文：論文等

a. 原著論文（審査有）

b. 原著論文（審査無）

c. 総説

d. その他研究等実績（報告書を含む）

e. 国際会議論文

(B) 学会発表等

(1) 国際学会

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

f. その他

(2) 国内学会（全国レベル）

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

f. その他

(3) 国内学会（地方レベル）

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

f. その他

(4) その他の研究会・集会

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

f. その他

(C) 特許等

区分	内容（発明の名称）	発明者又は考案者
----	-----------	----------

(D) その他業績

4. グラント取得

(A) 科研費・研究助成金等

区分	プロジェクト名	研究課題名	代表者名	分担者名	研究期間	金額（配分額）
区分	研究種目	課題名	代表者名	分担者名	研究期間	金額（配分額）

業績一覧

文部科学省科学研究費補助金	若手研究	児への侵襲を最小限とする分娩助産法での母親と新生児の健康状態評価	内江 希		20180401-20220331	¥780,000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	日本のAYA世代女性が、妊患者の妊孕性意思決定パートナーシップ看護支援モデルの創成	波崎 由美子	内江 希, 上澤 悦子	20190401-20220331	¥910,000
文部科学省科学研究費補助金	若手研究	高年女性に対するART終了後のQOL向上に向けた看護支援モデルの開発	嶋 雅代		20190401-20220331	¥1,690,000
文部科学省科学研究費補助金	若手研究	医療的ケアが必要な子どもの親が「主体的に災害へ備える力」を育むプログラム開発	高村 理絵子		20200401-20230331	¥910,000
文部科学省科学研究費補助金	研究活動スタート支援	医療的ケアが必要な子どもの親における災害への備えとその関連要因の検討	高村 理絵子		20190401-20210331	¥0

区分	機関名	課題名	研究者名	研究期間	契約金額
区分	機関名	課題名	研究者名	研究期間	契約金額

(B) 奨学寄附金

受入件数	0
受入金額	¥0

5. その他の研究関連活動

(A) 学会開催等

区分	主催・共催の別	学会名	開催日	開催地
----	---------	-----	-----	-----

(B) 学会の実績

学会の名称	役職	氏名
日本母性看護学会	一般会員	波崎 由美子
日本看護科学学会	一般会員	波崎 由美子
日本ウーマンズヘルス学会	一般会員	波崎 由美子
日本母性衛生学会	代議員	波崎 由美子
福井県母性衛生学会	理事	波崎 由美子
日本助産師会	一般会員	波崎 由美子
日本母性看護学会	一般会員	嶋 雅代
福井県母性衛生学会	一般会員	嶋 雅代
日本母性衛生学会	一般会員	嶋 雅代
日本災害看護学会	一般会員	嶋 雅代
日本生殖看護学会	一般会員	嶋 雅代
日本助産学会	一般会員	内江 希
福井県母性衛生学会	一般会員	内江 希
福井県母性衛生学会	一般会員	三反崎 宏美
日本看護科学学会	一般会員	三反崎 宏美
日本小児看護学会	一般会員	高村 理絵子
福井県小児保健協会	一般会員	高村 理絵子
日本看護技術学会	一般会員	高村 理絵子
日本災害看護学会	一般会員	高村 理絵子
日本小児臨床アレルギー学会	一般会員	飯田 悠希子
福井県小児保健協会	一般会員	飯田 悠希子

(C) 座長

国内学会 (全国レベル)	学会名	氏名
-----------------	-----	----

(D) 学術雑誌等の編集

学術雑誌等の名称	査読・編集	委員長(主査)・委員の別	氏名	査読編数
日本母性衛生学会誌	査読	委員	波崎 由美子	1
第61回日本母性衛生学会学術集会	査読	委員	波崎 由美子	5
日本生殖看護学会	査読	委員	嶋 雅代	0

(E) その他